

<<新型コロナ感染症関連 援助支援実施報告書>>

2020年8月20日

1) 生活困窮者のニーズ調査

2020年4月上旬、新型コロナ感染拡大により生活困窮者が増えてきたとの情報を受け、福島県南相馬市を含む浜通り地域および昨年台風19号による甚大な被害を受けた宮城県南部のニーズ調査を始めた。プライバシーの観点から、生活困窮者であることの個人情報提供を受けることが難しく、カリタス南相馬が関わる身近な方からの情報収集となる。

- ① 新型コロナによる雇止め等で生活が困窮してきた方々が、生活維持のため緊急貸付の受付窓口である社会福祉協議会に相談に来ているとのこと。貸付決定および送金されるまでに時間を要するため、各フードバンクが必要な食糧品を渡しているが不足との相談を受ける。
- ② 南相馬市社会福祉協議会では、高齢者や学童対象のマスク不足が懸念されるため、広報等でマスクの寄贈を呼びかけ始めた。
- ③ 仮設住宅等から移られた南相馬市内の復興公営住宅および災害公営住宅の代表管理人または自治会長にニーズを伺う。独居の方など買い物が困難な方もおられるとのことだが、現状では住民個人が各々の公的支援サービスを受けている。集会所等を利用したサロンが中止となり交流が制限され、住民の動向が見えなくなっているとのこと。南相馬市内の復興公営住宅において孤独死があり、新型コロナ感染予防で交流が制限されていたため発見が遅れた事例があった。
- ④ 南相馬市内にはベトナムから多くの技能実習生が働きに来ており、そのうちの数名はカトリック原町教会に来ている。市内で働く技能実習生で生活に困窮している人はいないか声掛けを続ける。技能実習生を受け入れている企業やホームステイ先の方々が気にかけて下さっているようで、当初は緊急性のある困窮はなし。
- ⑤ 在日外国人の中には、カトリック原町教会に繋がるフィリピンの方々がいるが、それぞれ結婚されて生活が安定し、困窮者の情報はなし。
- ⑥ 南相馬市民と外国人との交流をつなぐ南相馬市国際交流協会を訪問、特に緊急性のあるニーズはなし。
- ⑦ カリタス南相馬に隣接するさゆり幼稚園および市内で運営する民間の学童保育を訪問し現状を伺うが、緊急性のあるニーズはなし。

2) 支援活動の実施経過

ニーズ調査を受けて支援物資および精神的な支援方法について検討し、関係機関と連携した支援を開始し、必要とされる事項については現在も継続中である。

① 支援物資の募集

新型コロナによる生活困窮者のニーズはカリタス南相馬に限らず全国また世界的な問題であり、多くの方々に現状を知って頂き身近な方々にも支援の目を向けていただけたらと思い、CTVC 東京ボランティアセンターやカリタス南相馬のフェイスブックおよびメール登録されている方々に情報発信をしている。そして可能な方には支援物資の提供を呼び掛けた。5月以降、のべ14口の個人および団体から食糧品を寄贈頂き、必要な方への支援物資配布に活用させていただいている。

② マスク製作と寄贈

日中、カリタス南相馬を借りて活動する地元の方々のサロン「真こころ」において、不要布を活用したマスク製作が始まる。4月下旬、このマスクを100枚ほど買い上げ、復興公営住宅等でマスクを必要としている方々に支援物資と一緒に寄贈する。全国的にマスクの需要が高まり、現在も「真こころ」では必要に応じて製作を継続している。また、南相馬市社会福祉協議会の要請により、シスター達を中心となりマスクを200枚ほど製作して寄贈。7月末、マスクの募集の目標枚数5000枚に達したためこの事業は終了した。

③ 写真による応援メッセージ等の配布

カリタス南相馬につながる全国の支援者やボランティアさんから、写真でメッセージを送ってもらいフェイスブック等に掲載。また挨拶文や便りとして印刷して、サロン中止等で交流が制限されている復興公営住宅等の住民に、マスクや支援物資と一緒に数回配布した。挨拶文配布時には、カリタス南相馬のニュースレターも合わせてポストイングし、相談窓口としてのカリタス南相馬の連絡先を記載。この連絡先記載による支援物資お礼等の電話は数件あったが、相談等はなし。

④ 戸別訪問

4月当初は新型コロナ感染予防のため戸別訪問は避け、便りなどのポストイングをしていたが、7月頃には福島県内の感染拡大が収まり、可能な方には玄関先での戸別訪問を開始、感染状況を判断し継続中。8月からは南相馬市社会福祉協議会によるサロンが再開し、感染予防をしながら少しずつ住民の交流も出来るようになってきている。

3) 各市町村社会福祉協議会など支援物資の提供

(提供数については、全国に呼びかけ送られた支援物資およびカリタス南相馬の備蓄品を含んでいる。)

① 南相馬市社会福祉協議会フードバンク

● 4月30日提供	・レトルトご飯	20食
	・レトルトカレー	40食
● 5月14日提供	・レトルトご飯	20食

	・レトルトカレー各種	48 食
	・缶詰各種	62 缶
	・みそ汁各種	240 食
	・ふりかけ等各種	35 袋
● 5月22日提供	・レトルトご飯	20 食
	・レトルトカレー各種	30 食
	・缶詰各種	30 缶
	・みそ汁各種	300 食
	・ふりかけ等各種	36 袋
● 8月17日提供	・レトルトおかず各種	90 食
	・缶詰各種	60 缶
	・めんつゆ各種	19 食
	・経口補水オーエスワン	48 本

② 相馬市社会福祉協議会フードバンク

● 5月15日提供	・レトルトご飯	26 食
	・レトルトカレー各種	30 食
	・缶詰各種	39 缶
	・ラーメン各種	30 食
	・みそ汁各種	120 食
	・ふりかけ等各種	22 袋
● 5月22日提供	・レトルトご飯	20 食
	・レトルトカレー各種	30 食
	・缶詰各種	30 缶
	・ラーメン各種	30 食
	・みそ汁各種	120 食
	・ふりかけ等各種	20 袋
● 8月17日提供	・缶詰各種	50 缶
	・みそ汁各種	100 食
	・シャンプー石鹸各種	30 個
	・衛生用品各種	10 個
	・マスク	5 個

③ 浪江町社会福祉協議会

● 5月15日提供	・レトルトご飯	24 食
	・レトルトカレー各種	30 食
	・缶詰各種	30 缶
	・ラーメン各種	55 食

● 5月22日提供	・みそ汁各種	120食
	・ふりかけ等各種	16袋
	・レトルトご飯	40食
	・レトルトカレー各種	30食
	・缶詰各種	30缶
	・ラーメン各種	30食
	・みそ汁各種	120食
	・ふりかけ等各種	16袋

④ 新地町社会福祉協議会

● 5月22日提供	・米	10キロ
	・レトルトご飯	30食
	・レトルトカレー各種	40食
	・レトルトおかず各種	10食
	・缶詰各種	40缶
	・ラーメン各種	50食
	・乾麺各種	30袋
	・みそ汁各種	300食
● 8月17日提供	・米	10キロ
	・レトルトカレー各種	50食
	・レトルトおかず各種	30食
	・レトルトスープ各種	60食
	・缶詰各種	30缶
	・ラーメン各種	45食
	・乾麺各種	20袋
	・みそ汁各種	100食
	・ふりかけ等各種	40袋
	・ソーセージ	60本

⑤ 宮城県南部自立相談支援センター（管轄地域：白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、丸森町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町）

● 5月22日提供	・米	15キロ
	・レトルトご飯	50食
	・レトルトカレー各種	80食
	・レトルトおかず各種	20食
	・缶詰各種	50缶
	・ラーメン各種	80食

● 8月17日提供

・乾麺各種	70 袋
・みそ汁各種	500 食
・ふりかけ等各種	50 袋
・米	20 キロ
・レトルトカレー各種	70 食
・レトルトおかず各種	60 食
・レトルトスープ各種	180 食
・缶詰各種	50 缶
・ラーメン各種	70 食
・乾麺各種	40 袋
・みそ汁各種	300 食

4) 復興公営住宅および災害公営住宅の住民支援

仮設住宅の頃から毎月カリタス南相馬に滞在し、復興公営住宅等でボランティアを続けている「どこでも足湯隊」代表者に協力をお願いし、各団地の代表管理人または自治会長と連絡をとる。新型コロナによりこれまでの住民同士の交流は制限され、部屋に引きこもってしまう状態が続き、支援物資の配布による安否確認を含め支援方法を検討する。事前にポスター、チラシ等で実施方法とカリタス南相馬の挨拶文、写真による応援メッセージをポスティングする。また何か相談出来るようにと、カリタス南相馬の連絡先を記載する。配布した食糧品については、全国に呼びかけ送られた支援物資およびカリタス南相馬の備蓄品を含んでいる。1世帯あたり缶詰やレトルトおかず各種3品を配布。

※ 復興公営住宅（南相馬市内5ヶ所の内、4ヶ所で実施）

① 南町団地 ● 6月18日配布

孤独死があった団地で、当時の代表管理人は危機感を持っておられた。約240世帯全戸の配布を希望され、配布方法は各棟の管理人が訪問して出来る限り手渡した。現在、団地の集会所が改修中だが、終了したらサロン等住民の交流を始めたい希望あり。

② 上町団地 ● 6月19日配布

支援物資を必要としている方に配布する方法とし、事前に引換券付きご案内チラシを約170世帯全戸ポスティングした。配布場所は密になることを避けるため集会所の外で34世帯が来られ、立ち話をされる住民もおられた。

③ 北原団地 ● 7月6日配布

支援物資を必要としている方に配布する方法とし、事前に引換券付きご案内チラシを約250世帯全戸ポスティングした。団地敷地が広く集会所が離れているため、配布場所は各棟の休憩所で47世帯が来られ、休憩所で話をされる住民もおられた。

④ 牛越団地 ● 7月8日配布

支援物資を必要としている方に配布する方法とし、事前に引換券付きご案内チラシを

約 150 世帯全戸ポスティングした。各棟の休憩所で配布をしたが、大雨のため外に出にくく、ベランダから顔を出されていた方には玄関先まで届けた。15 世帯に配布。

※ 災害公営住宅（南相馬市内 11 ケ所の内、4 ケ所で実施）

⑤ 小高東町団地 ●6月10日配布

新型コロナ感染の以前から集会所を利用し月一回の野菜提供や交流があり、全戸 20 世帯に写真応援メッセージの便り等と一緒に配布する。

⑥ 小高上町団地 ●6月10日配布

小高東町団地同様、全戸 16 世帯に配布。

⑦ 萱浜団地 ●6月22日配布

事前にチラシで訪問日時をお知らせし、全戸 38 世帯に戸別訪問で手渡しする。

⑧ 大町団地 ●7月9日配布

大町団地の住民で集会所で「大町きらきらサロン」を開催している代表者と相談。週一回のサロンが再開したので、その時間帯に集会所の前で配布することにした。事前に引換券付きご案内チラシを約 150 世帯全戸ポスティング。サロンには団地以外の地域住民も参加しており、その方も含め 54 世帯に配布。

5) 技能実習生等の外国人への支援

4 月当初、緊急性ニーズはなかったが、新型コロナ感染が長引く中、製造業で働くベトナムからの技能実習生は収入が減り、家族への仕送りを優先するため自分の食費を削るしかない現状が見られ始めた。8 月 16 日教会に来た際にこのベトナム青年に支援物資の食糧品を見てもらい、共同生活しているベトナム人も含めて米や食材など必要な物を提供する。今後、ますます厳しくなり外国人支援のニーズが高まることも予想される。

6) 支援の評価と今後について

技能実習生等の外国人を含め、新型コロナ感染拡大が長引くほど、生活に困窮する方々は増えてくると予想され、支援物資となる食糧品寄贈の呼び掛けをフェイスブック等での発信を継続する。今後の社会福祉協議会等からの再要請に備えて、支援物資購入の予算化や追加援助金申請も検討する。また、経済面では困窮が見られなくても、人と人の交流が制限される中、感染防止の上で戸別訪問を継続し、孤独死を防ぐなどの心の支援を考えていく必要がある、その方法を検討して実施していく。

【メール添付および郵送による援助金使用報告書類】

- 実施報告書
- 収支報告書
- 活動写真および資料
- 領収書のコピー

